

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: フランス社会科学高等研究院(EHESS)

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

フランスにある大学院大学(正確には大学 Université ではなく、グラン・テタプリスモン Grand établissement)。社会科学専門の研究機関であり、修士課程・博士課程ともに、外国籍の学生が半数ちかくを占めるのが特徴。

留学した動機

フランス史を専攻しており、文書館等へ赴いて史料を渉猟する必要があったため。フランス社会科学高等研究院 EHESS を留学先を選んだのは、第一に東京大学との交換留学制度があり留学しやすかったためであり、第二に、自身の専門に近い受入教授がいたためである。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2015]年 博士[1]年の[S2]学期まで履修

②留学中の学籍: 留学

③留学期間: 2015年 10月 ~ 2016年 6月 博士[1]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2016]年 博士[2]年の[S2]タームから履修開始

⑤就職活動の時期: 就職する予定はない。

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[4]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[?]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2015]年 [4]月入学 西暦[2018]年 [3]月修了見込み

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [3]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由: 指導教授が退職されたため、東京大学の所属研究科でフランス史を専門とする研究者の指導を受けることができなくなったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

こちらから国際交流担当者に連絡をとらなければ、ただ待っていても何の連絡もこないで学籍登録できない。担当者を EHESS のホームページで探して、登録には何が必要かをメールで尋ね、必要書類をそろえたうえで面談をしなくてはならない。私は先輩から教えてもらっていたからよかったが、この点には注意が必要である。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザを、フランス大使館(南麻布)にて申請しなくてはならないが、交換留学生は予約も要らず、比較的スムーズに事が運ぶ。しかし、わたくしの場合は奨学金受給証明書の原本を複数枚もっていたため、通常は複写したものを提出するところ、原本を使用したのであるが、その旨を伝えて「良い」と言われたのにもかかわらず、いつか複写したものを持ってくるものだと言われ、いつまで経ってもビザがおりず、結局抗議しに大使館にいくと、その場でビザを発行してくれるというトラブルがあった。フランス大使館は、トラブルも多いと聞くので注意が必要である。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯医者だけは保険が効かないため、留学前に行っておいたほうがよい。頭痛薬や胃腸薬は持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学に指定された保険に加入したが、フランスは学生に独自の保険にはいることを義務づけているので、保証範囲がかなり重複するはずである。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学前には、人文社会系研究科に単位分割申請書と留学許可願を提出した。また、申請者は、留学中の4月に博士課程2年時に進級したので、「博士論文準備計画書」を提出せねばならなかった。人文社会系研究科の博士課程学生は注意が必要である。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

交換留学開始前にパリ・カトリック学院に2か月間通い、交換留学開始時には、フランス語能力試験TCFのC1(仏検1級に相当するレベル)を取得していた。悪くないスコアではあるが、もっと勉強しておけばよかったと思っている。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

- ・パリは大都市であるため、必要なものは(日本のものであれ)何でも買えるから、特に何かを持参する必要はない。
- ・語学力は高ければ高いほどよいので、日本でできる勉強はできる限りしておくことをお勧めする。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

「Ecrire l' Histoire de France」(Patrice Gueniffey 研究主任/途中で中止)

ほかにも登録はしていないが、フランス語関係の授業に複数出席した。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業スタイルは担当教授によってまったく異なるので、なんとも言えない。私の指導教授のゼミナールは(途中で中止となったけれども)講義形式で、学期末に主題は何でもよいからレポートを提出しなくてはならないというものであった。印象に残っていることとしては、EHESSの授業は、いろいろなバックグラウンドを持っている人が多い。指導教授のゼミナールは、30名ちかくが出席しており、そのうち約20名は高齢者の聴講生、約6名は他大学の学生であった。また、外国籍の学生も多かった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

何の規定もなく自由に履修できるが、私は大学院生であり研究を優先したかったので、1コマしか申請しなかった。日頃は、毎日フランス国立図書館などに通って勉強した。

④学習・研究面でのアドバイス

フランスは、イギリスなどの学費の高い国と違って、懇切丁寧に指導してくれる国ではない。「言われてからやる」のではなく、自分の力で研究を進めていくことが肝腎である。もちろん、(受入教授にもよるが)相談をすれば助言をいただける。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

語学は、どんなに良いスコアを持っている学生でも苦勞すると思う。「あんなに頑張ってきたのに！」と自分の語学力に落胆することもあるかもしれないけれど、くじけない強さが必要だと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

国際大学都市の日本館という学生(研究者)寮に住んだ。家賃が 440 ユーロ(※2016 年度夏より値上がり予定)と安いし、多くの日本人学生が住んでおり安心できると考えたためである。居室にトイレがないなど、設備面の不満も多いけれども、さまざまなイベントがあるなど、とても楽しかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

基本的に一年をとおして日本より温度が低いと思われるが、フランスは基本的に冷房を設置しない国なので、夏こそ暑くて大変であった。私の留学先であるパリは大都市なので、交通面や食事面で困ることはなかった。お金に関しては、どんなに些細な金額であっても、基本的に日本のクレジットカードを使った。ただし、稀に使えないときがあるので、フランスのクレジットカードも所持していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

2015年 11 月に同時多発テロが発生したが、日本大使館からの安全情報メッセージもあって、なにも困ったことはない。治安が悪い地区でも、怖い思いをしたことは一切なかった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃 6 万円、食費・飲料費 7 万円、その他 2 万円

・留学に要した費用総額とその内訳

上記の生活費に往復航空券の費用を足して、150万円程度。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

2015年 10 月から 2016 年 6 月にかけて、業務スーパー・ジャパンドリーム財団から月額 15 万円の奨学金をいただいた。東京大学国際本部の海外留学用奨学金・助成金ホームページを定期的にチェックして見つけた。網羅的に掲示してくださっているので、是非チェックすることをお勧めしたい。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

基本的に研究活動に従事していたが、パーティーやイベントには積極的に参加した。パリ市内・近郊は、ときどき観光したけれど、自身が将来長期に亘って留学しようと考えていたため、今回は地方や他国にまで足をのばすことはなかった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ほぼなし。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

フランスの大学の図書館は、一般的に充実しておらず、食堂、スポーツ施設、PC室等もないことが多い。社会科学高等研究院も同様である。

留学と就職活動について

就職をする予定はなく、就職活動はおこなっていない。

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

手続きや日常生活等で大変なことが多かったけれど、次第にイライラすることもなくなり、フランス人的生活に慣れた。

②留学後の予定

4学期制になったこともあり、S2タームから授業を履修している。また、フランスに留学したいと考えている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

いろいろな懸念があるかもしれないけれど、深いことを考えず、とりあえず留学することをお勧めします。国内にこもっているより、必ず有意義な経験になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

先輩に尋ねたので、とくにありません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし。